

乗雲

寺報
第98号

H29.8.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

「海の水を辞せざるは同事なり、
このゆえによく水あつまりて
海となるなり」
修証義

本年度の曹洞宗管長福山諦法
禅師様の告諭には、『四摂法の「同
事」のおさとしに学び、「ともに
願い」ともに寄り添い「ともに
歩む」願楽を進めます。』とあり
ました。



「同事」という言葉は曹洞宗の
經典である「修証義」の第四章に
出てきます。「布施」「愛語」「利
行」「同事」とある日常生活の心
構えを説いた『四摂法』の四つ目
の徳目です。相手と同じ立場、同

じ目線で、相手の身になって行動
することを言います。道元禅師様
は「同事というは不違なり」と示
されました。「不違」とはたがわ
ぬ、そむかぬこと、同じである
ということ。人と人が向き合う
とき相手の立場にたち、互いの苦
しみ悲しみを自分の事として感
じとる心が「同事」です。

広がる海は はてしなく
全ての命 はぐくむよ
人の心も おおらかに
互いを敬い 信じ合おう
ほほえみひとつ 涙ひとつ
出逢いも別れも 抱きしめて
生きてる今を愛して行こう

これは、梅花流詠讃歌の南こう
せつ作詞作曲による「まごころに
生きる」の二番の歌詞です。海は
どの川からでも流れてくる水を、
いかなる水もこばまず等しく受

け入れ、それらの水が集まって、
全ての命を育む大海となる。「同
事」の教えを表しました。

私たちは何事につけても自分
中心に物事を考えがちで、相手
の事を先に思って行動すること
は中々出来にくいものです。こ
のことについて、道元禅師様は同
じ「四摂法」の中で、

「ただまさにやわらかなる容顔
もて、一切にむかうべし」

と示されています。目の前の人、
目の前の事柄、自然界の全てに渡
って思いやりのある生き方、接し
方、子どもを相手に手鞠をつく良
寛様のように、子どもに対しては
子どもの立場で、女性、老人それ
ぞれの立場で自分の方から心を合
わせていく。それには、「ただま
さにやわらかなる容顔をもて」、い
つも穏やかな、柔和な表情をもつて
人と接する心がけが大切であると
説いています。これが本来備わる
尊い仏心に目覚め、同事行の実践
につながることにすると教えてい
ます。普段からの仏心（人を思い
やる心、優しい心、慈悲の心）を
育てる修行が必要です。

平成二十九年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

▼今年（平成二十九年）の年回忌
表です。正当の各家には昨年十一
月に通知しています。

▼日曜・祝日のご法事の申し込み
はお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味
する言葉で、亡くなってからちよ
うど一めぐりした翌年のその日
を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くな
られた日を最初の忌日と考えて、
三回目の忌日が「三回忌」となる。
以降は丸六年目が七回忌、丸十二
年目が十三回忌となる。